

明治四十三年
京都府立農事試驗場業務功程

京都府立農事試驗場

27)

061678-000-3

14. 21-275

京都府立農事試驗場業務功程 明治43年度

京都府立農事試驗場

M44

CCA-0313



二、	大麥品種試驗	五	頁
三、	種子改換試驗	六	頁
四、	畿内支場選出麥芽用大麥雜種試驗	六	頁
五、	播種法試驗	七	頁
六、	播種期試驗	七	頁
七、	移植法試驗	七	頁
八、	晚蒔法試驗	七	頁
九、	廐肥用量試驗	七	頁
十、	窒素質肥料肥効比較試驗	七	頁
十一、	石灰窒素効果試驗	八	頁
十二、	油粕施用期試驗	八	頁
十三、	窒素施用期試驗	八	頁
十四、	鷄糞肥効試驗	八	頁
十五、	鷄糞施用法試驗	九	頁
十六、	人糞尿濃度試驗	九	頁
十七、	磷酸施用試驗	九	頁
十八、	米糠ノ施用法ト米糠ノ磷酸肥効試驗	九	頁
十九、	小麥品種試驗	十	頁
二十、	農商務省命令試驗	十	頁
二十一、	農商務省委託試驗	十	頁

(三)	水稻及ビ麥作併行試驗	十	頁
一、	深耕試驗	十	頁
二、	深耕ト肥料用量試驗	十	頁
三、	窒素肥料連年施用試驗	十	頁
(四)	見本試作	十	頁
(五)	木框及ビポット冬作試驗	十	頁
一、	菜種油粕施用期試驗	十	頁
二、	磷酸肥料試驗	十	頁
三、	粉末硫黃殘効試驗	十	頁
四、	石灰窒素効果試驗	十	頁
五、	智利硝石濃度試驗	十	頁
六、	豇科植物ト肥料反應トノ關係試驗	十	頁
七、	腐植質土壤石灰加用試驗	十	頁
八、	肥料配合法跡地試驗	十	頁
(六)	木框及ビポット夏作試驗	十	頁

- 十一、 蕪菁品種試驗
- 十二、 萊菔播種期試驗
- 十三、 甘藍品種試驗

二十五頁
二十五頁
二十五頁

(二) 果樹ニ關スル試驗

- 一、 生栗殺虫法試驗
- 二、 栗實貯藏試驗

二十六頁
二十六頁

(三) 見本 試作

報告及庶務

- 圖書發刊
- 職員出張回数
- 種苗配布數
- 野鼠驅除
- 依頼分析件數
- 質問應答件數
- 文書受發件數
- 來觀人數
- 會計事務

三十頁
三十一頁
三十一頁
三十一頁
三十一頁
三十一頁
三十一頁
三十二頁
三十二頁

明治四十三年度京都府立農事試驗場業務工程

明治四十三年度中京府立農事試驗場本場及ヒ分場ニ於テ施行セシ試驗事項及成績並ニ其他ノ事項左ノ如シ

本場之部

(一) 水稻ニ關スル試驗

一、 豊凶考照試驗

早、中、晚稻ニ就キ各三品種ヲ以テ毎年同一地ニ於テ同一品種ヲ等一管理耕種ノ下ニ栽培シ一定時期ニ於テ其生育ヲ調査シ以テ氣候トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ其成績ハ毎回之レヲ平年ト對照比較シ其年ノ豊凶ヲ豫想シ之レヲ農商務省農事試驗場ニ報告ス

二、 品種試驗

明治三十九年度ニ於テ從來試驗セル品種ニ就キ其成績ニ基キテ選定シタル左ノ

早稻	有岡	早稻	福山
中稻	伊勢錦	早稻	八重穗
早稻	東京	晚稻	雄町
晚稻	五反穗	糯稻	神力
糯稻	竹成		元氣

品種ヲ標準種トシテ試作年數ノ短クシテ未ダ成績ノ是非ヲ定メ得ザリシ品種ト本府各郡ニ於テ廣ク栽培セル稻品種四十四ニ就キ其優劣ヲ比較シ以テ更ニ本府適應ノ品種ヲ選擇セントス其成績ニヨレバ收量ニアリテハ

早稻種ハ支那、大場、六十日早稻ノ順ヲナシ之レヲ標準種ニ比スルモ亦多收ヲ示セリ然レドモ品質ニアリテハ標準種ニ優ルモノナク獨リ大場種ニアリテ稍佳良ナリ之レヲ以テ大場種ハ收量、品質相俟テ有望ナル品種トス

早中種ハ伊勢錦、岡山、森早稻ノ順ヲナシ之レヲ標準種ニ比スルニ孰レモ著シキ遜色アルヲ認めズ尙ホ試験繼續中ニ屬ス

中稻種ハ白富士、尾崎、西方寺、京一本ノ順ヲナシ之レヲ標準種ニ比スレバ凌駕スルモノ多シ尙試験繼續ス

早晚種ハ鬼熊、小錦、雄町、小澤錦ノ順ヲナシ之レヲ標準種ニ比スル時ハ收量ニ於テ優ルモ其他ノ点ニアリテハ未ダ優ルトイフヲ得ザレバ尙ホ試験ヲ繼續ス

晚稻種ハ赤米穗、曲玉、五穀穗ノ順ヲナシ之レヲ標準種ニ比スレバ著シキ優劣ヲ認めザルモ概シテ成熟期遅キタメ不便尠カラズ殊ニ赤米穗種ハ米質着色不良ナリ

糯種ハ比較品種ノ少キタメ標準種ノミヲ示シ更ニ品種ヲ増加シ試験ヲ繼續セントス

三、本府下栽培稻品種特性調査試験
本府各郡ニ於テ栽培セラル、全般ノ稻品ニ就キ其性狀ヲ究メ品種試験ト相俟テ本府栽培稻品改善ノ資ニ供セントスルモノニシテ本年度新タニ集メタルモノ六十二品種、前年試作セル管内種六十八品種ニシテ之レニ管外種、本場選定標準種ヲ加ヘテ總計百六十三品種ニツキ調査シツ、アリ現今尙ホ調査中ニ屬ス

四、粉末硫黃施用試験

粉末硫黃ヲ其土地ニ施ストキハ水稻作ニ對シ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ知ラントスルニアリテ其成績ニヨレバ普通肥料ニ粉末硫黃ヲ加用シタルモノハ其否ラザルモノニ比シ生産大ナリト雖モ之レガ施用量ノ多少トハ關係分明ナラズ元來硫黃粉末ニハ肥料成分ヲ含蓄セザルモノナルヲ以テ見レバ之レガ施用ニヨリテ增收ヲ示セルハ土壤中ニ於テ硫黃化合物ヲ生シ植生作用ヲ助ケ或ハ土壤中ニ於ケル細菌ノ作用ヲ抑制シ以テ肥料ノ分解作用ヲ適度ナラシメタルモノニヨルナランカ尙ホ試験ヲ重ネテ之レヲ判明ナラシメントス

五、石灰窒素効果試験

稻作ノミニ石灰窒素ノ肥効ヲ知ラントスルモノニシテ其成績ニヨレバ二ケ年共石灰窒素ハ硫酸「ア」ンモニヤ」ニ優ルヲ見ル

六、石灰窒素連用試験

同一地ニ石灰窒素ヲ各作連用スル時ニ於ケル石灰窒素ノ肥効ヲ永年ニ亘リ驗知セントスルモノナリ而シテ前記石灰窒素効果試験ト相俟テ之レヲ知ラントスルモノニシテ試験繼續中ニ屬ス

七、石灰窒素施用試験

石灰窒素施用ノ時期ト方法トヲ稻作ニ就テ知ラントスルモノナルガ石灰窒素ハ下種栽植ノ際施用スルトキハ有害作用ヲ呈スルヲ以テ之レヲ避ケザルベカラズ二週日前ニ施スヲ適當ナリトナセリ然ルニ本府ノ如キ二毛作地大部ヲ占ムルニ於テハ前作ト後作ノ間短カキヲ以テ之レガ施用ノ方法ヲ研究シ其時日ヲ短縮セシメザレバ之レガ施用ハ困難ナリ茲ニ於テ其方法ヲ研究シテ適當法ヲ驗出セントスルニアリテ繼續試験中ニ屬ス

八、本府施肥改良試験

本府水稻作上ニ於ケル現今ノ施肥方法ハ之レヲ如何ナル改良ヲ施スヲ以テ少費多穫ノ策トスルカヲ

驗セントスルニアリ抑モ本府現下ノ施肥状態ヲ調査スルニ完全ナルモノ未ダ甚ダ少ナキヲ見ルナリ之レヲ以テ當場ハ創設以來之レガ改良資料トシテ種々試験ヲ施行シテ成績ヲ發表シ改良ヲ促シツ、アルモ其途ニ著ケルモノ尠キヲ憾ムサレバ改良ハ目下ノ急務ナリ依テ本場創立以來ノ試験成績ヲ基トシ農商務省農事試験場ノ成績ヲ參照シテ改良ノ試験ヲ行ヒテ範ヲ垂ル、ト共ニ改良ニヨリテ來リタル增收率ヲ知り農家ニ示サントスル其施肥方法ヲ地方別トス即チ五地方別トシ各十區内外ヲ設ケ四十五區ニ分チテ施行ス其地方別ハ

- 甲、人糞尿施用地方ニシテ地下水高キ地方ノ方法
 - 乙、人糞尿施用地方ニシテ石灰ヲ加用スルノ方法
 - 丙、柴草施用地方ノ方法
 - 丁、柴草ニ石灰ヲ加用スル地方ノ方法
 - 戊、柴草、蠶渣施用地方ノ方法
 - 等ニシテ試験繼續中ニ屬ス
 - 九、粃米乾燥法試験
 - 穀物乾燥ト虫害腐敗並ニ容量歩減ヲ調査研究セントスルモノニシテ今尙ホ調査中ニ屬ス
 - 十、採種栽培試験
 - 採種スベキ品種ハ次ノ十二種トシ粃十種、糯二種トナシ配布用ニ供ス
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 早 | 早 | 早 | 早 | 中 |
| 中 | 中 | 中 | 中 | 中 |
| 稻 | 稻 | 稻 | 稻 | 稻 |
| 有 | 福 | 東 | 京 | 八 |
| 岡 | 山 | 重 | 八 | 重 |
| 大 | 伊 | 勢 | 錦 | 場 |
| 雄 | 雄 | 雄 | 雄 | 雄 |
| 力 | 力 | 力 | 力 | 力 |
| 町 | 町 | 町 | 町 | 町 |

(二) 麥作ニ關スル試験

一、豊凶考照試験

大稈小麥ニ就キ各三種ヲ以テ毎年同一地ニ等一ナル耕種管理ノ下ニ栽培シ一定時期ニ於テ其生育ヲ調査シ以テ氣候トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ其成績ハ毎回之レヲ平年ト比較對照シ其年次ニ於ケル豊凶ヲ豫想シ之ヲ農商豫省農事試験場ニ報告スルモノナリ而シテ本年ノ作況ハ生育初期ニ於テ寒冷ノタメ生育遲緩ナリシモ春分後大ニ之レヲ恢復セリ然レドモ成熟期ニ於ケル土地ノ乾燥ハ稔實ヲシテ不充分ナラシメ前年ニ比シ減收ナリキ只前九ヶ年平均ニ比シ五分ノ增收ナルヲ示セリ但シ本年一般ノ麥作ハ刈取期ニ際シ雨天ニ逢遇セルタメ品質ヲ害シタルモノ少カラズ

二、大麥品種試験

明治三十九年度ニ於テ從前ノ試験成績ニ基キ優良種トシテ選定シ當場臨時報告第十三號ニ依リ發表シタル品種ヲ標準トシ之ニ府下各郡ニ廣ク栽培セル各品種ヲ比較シ一方全國ニ於テ優良品種ト認メラル、モノニ就キ其優劣ヲ調査比較シ以テ更ニ本府ニ適應スル良種ヲ選擇シ品種改良ノ資ニ供セントスルモノナリ而シテ三十九年度ノ創設ニ係リ爾來之ヲ繼承シ試験中ニ屬ス本年度大麥ハ二十種ヲ以テ供試シ其成績ニ依レバ標準種ナル倍取ニ比シ多收ナルモノニ六角セバリエー、タープ、アルモ其性狀ニ於テ未ダ良種ト認メ難シ次ニ府下ノ品種ヲ見ルニ收量ニ於テ標準種ニ勝ルモノナク就中 白五郎(久世郡)愛宕郡在來種 白麥(南桑田郡)等多收ナルモ概ネ子實ニ對シ

稈量多キノ失アルガ如シ而シテ兩丹地方ノ品種概シテ然リトス

稈麥ハ本年度ニ於テ二十七種ヲ以テ供試セリ其成蹟ニヨレバ標準種屋根稈ニ比シ多收ナルモノヲ青谷(綴喜郡)ノミトス而シテ本府ノ稈麥品種ヲ觀ルニ山城地方ニアリテハ八寸ト稱シ珍子ト稱シ屋根稈ニ似タルモノアリテ小首(シヤツボン又ハコビンカタゲト稱ス)亦多シ本小首種ノ屋根稈ニ劣ルハ已ニ確メラレタリ兩丹地方ノ稈麥ニモ小首アリ之レ以外ノ品種ハ概ネ品質劣悪ナルヲ認ム

三、種子改換試驗

凡ソ作物ハ同一地ニ同一種ヲ栽培スルコト久シキニ涉ルトキハ次第ニ其地ニ慣レ遂ニハ生産力ヲ減損スルニ至ルトセラレタリ依ツテ今大麥品種改良上種子ヲ改換スルハ如何ナル利害ヲ有スルヤ若シ効果アリトセバ何レノ地方ヨリスルヲ良トナスベキヤヲ驗知セントスルモノニシテ明治三十九年度ヨリ爾來之レヲ繼續シ來タレリ而シテ大麥ハ薄皮種稈麥ハ屋根稈ヲ以テシ其成蹟ニ依レバ

大麥ハ其改換ノ効果著シキモノナキモ當場如キ天然要素ノ下ニアリテハ稍寒冷ナル地方ニ種子ヲ仰グニ利アルヲ示セリ

稈麥ニ於テモ亦改換ノ効果顯著ナラズ而シテ當場地方ニアリテハ大麥ト反對ニ稍温暖ナル地方ヨリ種子ヲ輸入スルニ利アルガ如シ

四、畿内支場選出麥芽用大麥雜種試驗

農商務省農事試驗場畿内支場ノ依頼ニヨリ同場ノ選出ニ係ル雜種麥酒用大麥ハ何レヲ以テ關西麥酒麥栽麥地方ニ適スルヤヲ查知セントスルモノニシテ交雜歩合性狀收量品位等ニ就キ調査セリ之レ前年度ヲ繼承シ其數四十ヲ以テゴールデンメロンニ比較セリ

五、播種法試驗

成畦及條ノ方法ノ異ナルニヨリ麥作ニ及ボス影響ヲ知ラントスルモノニシテ試驗年數七ケ年ヲ重ネ

タリ其成蹟ニ依レバ條播ハ雁木播ニ優リ畦幅ニ於テハ二尺畦最モ劣レリ

六、播種期試驗

麥作上播種期ノ異ナルニ依ル影響及播種ノ適期ヲ知ラントスルモノニシテ繼續六ケ年ニ亘レリ而シテ其成蹟ニ依ルトキハ稈麥ハ十一月十日前後ヲ最モ適期トナシ其早キニ失スルヨリモ晚キニ失スルニ不利多シ殊ニ十一月下旬ニ入り下種スルトキハ發芽日數ヲ多ク要シ收量著シク減ズルヲ見ルナリ

七、移植法試驗

麥ヲ適期ニ下種シ能ハザル場合ニ於テ別ニ育成セル苗ヲ移植スルノ利害ヲ知ルト共ニ移植上一株本數ハ幾何ヲ以テ適當トナスヤヲ驗セントスルモノニシテ五ケ年ニ亘リ試驗セリ其成蹟ニ依ルトキハ十二月上中旬ニ移植セバ十月下旬播種セルモノ、約九割ヲ生産ス一株本數ハ本年ノ氣候ニ依リ差異アルモ條間二尺株間二寸トシ十二月上旬ニ移植スル場合ハ四本内外ヲ以テ好適トナスガ如シ

八、晚蒔法試驗

晚蒔ノ止ムナキ場合ニ於テ種子ニ豫措ヲ施スノ利害及移植トノ得失ヲ知ラントスルモノニシテ未ダ成蹟ヲ斷ジ難シトス只十二月下旬以降ニ入り下種スルハ豫メ苗ヲ仕立テ、之レヲ移植スルモノニ遠ク及バザルヲ示セリ

九、廐肥用量試驗

廐肥ヲ元肥トシテ大麥ニ施用スルニ當リ幾何量ヲ以テ最モ吸收セラル、割合大ニ而カモ經濟的ナルヤヲ驗シ施用適量ヲ知ラントスルモノニシテ七ケ年繼續試驗セリ其成蹟ニ依ルトキハ反六百貫匁マデハ其用量ノ多キニ從ヒテ子實收量多シトサレド實用上ニ於テハ反四百貫匁内外ヲ以テ適當トスルガ如シ

十、窒素質肥料肥効比較試驗

礦物質肥料ト有機物肥料トノ肥効及經濟上ノ得失ヲ比較スルモノニシテ明治三十五年冬作ヨリ繼續セリ其成績ニヨレバ單用ノ場合ニ於テ人糞尿ハ智利硝石硫酸安母亞ニ優リ廐肥ハ前三者ニ比シ著シク劣レリ而シテ廐肥ト共ニ他ノ窒素質肥料ヲ併用スル場合ニ於テハ硫酸安母亞ヲ以テセシモノ收量多キヲ常トセリ

十一、石灰窒素効果試験

新肥料ナル石灰窒素ノ麥作ニ對スル肥効ヲ知ラントスルモノニシテ之レヲ硫酸安母亞ニ比較セリ其成績ニ依レバ硫酸安母亞ニ過磷酸石灰木灰ヲ加ヘタルモノニ劣レドモ彼ノ過磷酸石灰硫酸加里ヲ用ヒタルモノニ比シ大ニ勝レリ而シテ石灰窒素ハ磷酸加里共ニ酸性肥料ヲ配スルヲ以テ肥効顯著ナルヲ示セリ

十二、油粕施用期試験

麥作肥料配合上ニ於テ油粕ヲ用フル場合ハ之レヲ何レノ期ニ施スヲ以テ有利ナリトスルカニ就キ查知セントシ繼續六ヶ年ニ及ベリ其成績ニヨレバ元肥トナスハ不利ニシテ殊ニ肌肥トシテ用フルニ於テハ大ニ發芽ヲ害シ從テ生育ヲ不良ナラシム而シテ一月中旬追肥トシテ用フルニ利アルガ如シ

十三、窒素施用期試験

麥作上窒素ハ如何ナル期ニ施用シ初メ如何ニ分施スルヲ麥ハ能ク吸收シ得テ窒素肥料施用ノ當ヲ得タルモノナルカヲ查知セントスルモノナリ

十四、鷄糞肥効試験

鷄糞所含ノ窒素ノ効果ヲ麥作ニ就テ驗知セントシ之レヲ智利硝石ニ比較セリ其成績ニ成レバ該窒素ハ智利硝石ノソレニ比シ約六割ニ過ギズ往々農家ノ鷄糞ノ肥効大ナルヲ稱フルハ窒素ノ効顯ヲ云爲スルヨリモ所含窒素量ノ大ナルニ依ラザルカ

十五、鷄糞施用法試験

鷄糞ヲ麥ニ施用スルニ當リ如何ナル方法ニ據ルヲ適當トナスカヲ知ラントスルモノニシテ試驗中ニ屬ス

十六、人糞尿濃度試験

麥作ニ用フル人糞尿ハ其稀釋ノ度ヲ異ニスルニ依ツテ之レガ吸收ニ差異ヲ來タスモノナリヤ否ヤヲ知ラントシ二倍四倍八倍稀釋ニ分チテ試驗セリ其成績ヲ見レバ各大差ナキモ元肥ニ於テ濃厚ニ春肥ニ於テ稀薄ナルヲ有利トナスガ如シ

十七、磷酸施用期試験

麥ニ磷酸肥料ヲ施ス最適ノ時期ヲ知ラントスルモノニシテ其成績ニ依レバ寒肥トシテ一月下旬乃至二月上旬ニ施スヲ有利ナリトス

十八、米糠ノ施用法ト米糠ノ磷酸肥効試験

米糠中ニ含有セラル、磷酸ハ如何ナル方法ニヨリ施用スレバ其効果ヲ全カラシムルヤヲ驗セントス以上ノ外大麥稈麥ニ就キ左ノ試驗ヲ施行セリ

蠶豆添植試験

刈取期試験

廐肥殘効試験

粉末硫黃殘効試験

十九、小麥品種試驗

大麥品種試驗ト等シク曩ニ選定セル寶滿種(當場ハ熊本縣ヨリ取り寄せタリ)ヲ標準トシ府下ノ各品種及全國ノ優良種ト比較シ層一層適當ナル良品種ヲ選バントスルモノニシテ未ダ成績ヲ確報スル

ノ期ニ接セズ只本年ノ成績ニ依レバ洋種フルツ多收ニシテ穂揃之レニ亞ケリ彼ノベルベツトチャ
プハ熟期殊ニ晩ク稈弱ク常ニ充實不良ナリ府下ノ品種ニアリテハ珍子早生(乙訓郡)綴喜郡在來種
ハ收量ニ於テ標準ニ優レリ彼ノ珍子早生ハ珍子種(愛宕郡葛野郡地方)ト同種ナルガ如ク共ニ稈低
ク強剛ニシテ收量亦多シト雖モ品質不良ニシテ洋種實滿種肥後種(南桑田郡)ニ及バザルヤ遠シ
二十、農商務省ノ命令ニ係ル試驗ハ次ノ如ク施行セリ

大麥黑穗豫防試驗

稗麥黑穗豫防試驗

小麥黑穗豫防試驗

二十一、農商務省委託ニ係ル麥芽用大麥試驗ハ次ノ如ク施行セリ

品種比較試驗

肥料(窒素用量)試驗

收穫期試驗

(三) 水稻及麥作併行試驗

一、深耕試驗

耕地耕勦ノ深淺ハ作物ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルヤヲ知ラントスルモノニシテ明治三十四年
秋初耕セル土地ニ於テ試驗ヲ繼續シ水稻麥ニ就テ調査セリ其成績ニ依レバ麥ニアリテハ畦作トナシ
テ深耕ノ利ヲ認ムルコト少ク三十九年此地ヲ割キ平作ヲ試ミシニ年々深耕ノ有利ナルヲ示セリ此レ
蓋シ其地常ニ乾燥スルニ依ルナルベシ水稻ニアリテハ深耕當初ニ於テ深耕ノ不利ヲ示シタレドモ後
三四年ヲ經テ深耕ハ普通耕ニ勝リ其多キニ從ツテ生産ヲ大ナラシムルニ至レリ本年亦然リトス

二、深耕ト肥料用量試驗

耕地耕勦ノ深淺ニ對シ肥料ノ用量ヲ異ニスルニ於テ耕地ノ性質ニ如何ナル變化ヲ來シ又作物ニ對シ
如何ニ影響スルカ及ビ肥料ノ經濟ニ就テ驗知セントスルモノニシテ明治四十一年秋ニ於テ深耕ヲ開
始シ少肥多肥ニ分チ麥水稻ヲ作付セリ試驗ノ日未ダ淺ク後年ヲ俟ツテ結論セン

三、窒素肥料連年施用試驗

異レル窒素肥料ヲ基トシ配合シタル肥料ヲ連年同一地ニ施ストキハ其ノ土壤ノ理化學性質ニ如何ナ
ル影響ヲ醸シ從ツテ作物ノ生育ニ如何ニ影響スルヤヲ知ラントシ四十二年麥作ヨリ初メ次ニ水稻ヲ
作付タルニ過ギズシテ未ダ成績ヲ知ルニ由ナシ本試驗ハ曩ニ三ヶ年間繼續セシモ成績ヲ見ルノ期ニ
到ラズシテ土地變更ノ止ムナキニ至レルヲ憾ム

(四) 見本試作

果樹蔬菜ニ付内外ノ良品種其他藥用工藝用家畜用娛樂用作物ヲ蒐集シ栽培法ノ範ヲ示セリ

(五) 木樞及ビボツト冬作試驗

一、菜種油粕施用期試驗

麥作ニ對シ菜種油粕ヲ用ユル場合之レヲ何レノ期ニ施スナリテ有利ナルヤヲ知ラントスルモノニシ
テ其成績ニ依ル時ハ一月下旬追肥トシテ施用セルモノ尤モ宜シク十二月下旬及ビ十二月下旬ト一月

下旬二回ニ分施セルモノ之レニ次ゲリ而シテ元肥トシテ下種ノ際之レヲ用ユル時ハ大ニ發芽ヲ害シ從ツテ生育收量共ニ不良ナルコト圃場試驗ノ成績ト同一ナリ

二、磷酸肥料試驗

麥作ニ對スル磷酸肥料ノ効果及ビ其適量ヲ知ラントスモノニシテ稈麥、大麥共ニ磷酸ノ効果著大ナルヲ示セリ而シテ稈麥ハ反二貫五百匁、大麥(ゴールデンメロン)ハ反三貫匁ヲ以テ尤モ適量トナスガ如シ

三、粉末硫黃殘効試驗

水稻ニ施用セシ粉末硫黃ノ其後作タル麥作ニ及ボス影響如何ヲ知ラントスルモノニシテ其成績ハ多少ノ効果アルヲ示セリ

四、石灰窒素効果試驗

石灰窒素ノ麥作ニ對スル肥効ヲ知ラントスルモノニシテ之レヲ硫酸アンモニヤニ比較セリ、其成績ニ依レバ石灰窒素ハ基础性ノ磷酸及ビ加里質肥料ヲ配合スルヨリモ過磷酸石灰、硫酸加里ノ如キ酸性肥料ヲ配合施用スルニ利アリ、然レドモ配合スベキ磷酸加里ノ何肥料タルヲ問ハズ其肥効ハ硫酸アンモニヤニ比シ幾分カ劣ルモノ、如シ

五、智利硝石濃度試驗

智利硝石ヲ麥作ニ施用スルニ當リ之レガ溶解稀釋ノ度ハ幾何ヲ以テ適當トスベキヤヲ知ラントスルモノニシテ其成績ニ依ル時ハ百倍ノ水ニ溶解セルモノ尤モ宜シク夫レヨリ濃厚ナルモノハ概シテ不良ナルヲ示セリ然レドモ二百倍ニ稀釋セルモノハ却ツテ五十倍液ニ劣レルヲ見ル

六、萱料植物肥料反應トノ關係試驗

肥料ノ反應ハ萱料植物ノ生育收量ニ如何ナル影響アルアヲ檢シ併セテ萱料植物ノ連作ヨリ生ズル

「イヤ地病」トノ關係如何ヲ知ラントスルモノナリ、本年度ノ創設ニシテ未ダ其成績ノ見ルベキモノナシ

七、腐植質土壤石灰加用試驗

船井郡蒲生原野ノ如キ生産力ニ乏シキ腐植質ノ土壤ニ石灰ヲ施用スル時ハ作物ノ生育ニ如何ナル効果ヲ示スモノナルヤヲ知ラントスルモノニシテ無石灰、石灰反十五貫匁、同三十貫匁、同五十貫匁ノ四區ヲ設ケ之レニ「レッドクロバー」ヲ播種セリ、其成績ニヨル時ハ無石灰區ハ發芽後枯死シ其他ハ無肥料區、完全肥料區共ニ石灰施用量ノ増加スルニ從ツテ生育佳良ナリシ

八、肥料配合法跡地試驗
水稻作試驗ノ肥料配合法跡地ニ大麥ヲ下種シ以テ其殘効ノ如何ヲ試驗セリ

(六) 木樞及ビボツ一夏作試驗

一、三要素試驗

本場土壤三要素天然供給量ハ肥料反應如何ニ依リテ異ナルベキヤ否ヤヲ知リ併セテ三要素ノ何レニカ偏シタル場合ノ影響如何ヲ查覈セントスルモノニシテ從來ノ要素試驗ヲ變改セルモノナリ、其成績ニヨレバ本場ノ如キ土壤ニ於テハ窒素供給充分ナラザルベカラザルモ磷酸及ビ加里ハ之レガ欠乏ヲ告グルコト比較の少キガ如シ、而シテ反應ノ如何ハ未ダ成績ヲ斷ジ難キヲ以テ尙ホ試驗ヲ續行スル所アラントス

二、石灰窒素効果試驗

稻作ニ對スル石灰窒素ノ肥効ヲ知ラントスルモノニシテ之レヲ硫酸アンモニヤニ比較セリ、本年ハ「イモチ病」ノ被害劇甚ニシテ其成績ヲ見ル能ハザリシモ前年ノ結果ニ依レバ石灰窒素ノ肥効ハ硫酸

アンモニアニ匹敵セルモノ、如シ、而シテ之レニ配合スベキ磷酸加里ハ、塩基性ノモノヨリモ過磷酸石灰、硫酸加里ノ如キ酸性肥料ニ利アルヲ示セリ

三、粉末硫黄施用試験

粉末硫黄ヲ加用スル時ハ、水稻ノ生育收量ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルモノニシテ前年度ヨリ繼續施行セリ、其成績ハ圃場試験成績ト同ジク、之レヲ加用セルモノハ其否ヲサルモノニ比シテ稍々良好ナルヲ示セリ

四、腐植質土壤石灰加用試験

腐植質土壤ニ石灰ヲ施用スル時ハ、作物ノ生育ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルヤヲ知ラントスルモノニシテ酸性中和ニ要スル石灰ヲ種々ノ分量ニ加用シ之レニ水稻ヲ栽植セリ、其成績ニ依レバ石灰ハ本土壤ニ何等ノ効果ヲ現ハザ、ルノミナラズ之レヲ加用セルモノハ却ツテ其否ラザルモノニ劣レリ、尙ホ試験ヲ續行セントス

尙前記腐植質土壤ニ對シ冬作「レツドクロバー」ニ於ケルト同様ノ設計ニテ供試作物ハ秋蕎麥ヲ以テセリ、其成績ニ依レバ無石灰區ハ發芽後枯死シ其他ハ石灰加用ノ多キ程生育良好ナルヲ示セリ

五、酸性土壤石灰加用試験

酸性土壤（包水硫酸鹽類ノ存在ニ基因ス）ニ對スル石灰ノ効果及ビ其用量ヲ知ラントスルモノニシテ酸度中和ニ要スル風化石灰ノ全量加用、同二分ノ一加用、同三分ノ一加用、同過量加用ノ四區ニ分チ之レニ標準區トシテ無石灰ノ一區ヲ設ケタリ、而シテ水稻ノ收量結果ニヨレバ三分ノ一加用尤モ宜シク二分ノ一加用之レニ次ギ全量及ビ過量加用ハ却ツテ無石灰ニ劣レリ

六、茄子肥料反應試験

肥料ノ反應ハ茄子ノ收量ニ如何ナル影響ヲ有スルモノナルヤヲ知ラントスルモノナリ、其成績ニ依

レバ配合肥料ノ「アルカリ性」反應ヲ呈セルモノハ中性及ビ酸性反應ヲ呈スルモノニ勝レリ

桃山分場

(一) 果樹ニ關スル試驗

一、梨品種比較試驗

梨ニ於テハ十三種中和種八種ニシテ長十郎尤モ良好幸藏赤穂之レニ次ギ貯藏種トシテハ晚三吉可ナルモ其貯藏力ハ赤龍種ニ比シ大ニ劣レリ洋種ニ於テハバートレット最良トス之レ結實シ易キト豊産ニシテ品質佳良ナルヲ以テナリ

二、桃品種比較試驗

桃ハ六種ニシテ此内アムステンジュン、ブリクス、メー上海水蜜桃ヲ以テ可トスアール、リバーズ、ノ如キ極メテ良品種アルモ之レ市場用トシテ餘リニ良品ニ失シ梗着溝裂目ヲ生ジ(核裂スルヲ以テ)雨露ノ侵入ノ爲メ内部ヨリ損傷ヲ來シ早ク腐敗シ賣品トシテ大缺點ナリトス天津水蜜桃モ從來市場ニ於テ大ニ稱用セラレシモ近時一般ノ嗜好變遷シ之レガ需用減少ノ姿ヲ呈スルニ至レリ谷五郎桃ハ本邦種中ノ良品ナルモ到底市場上ニ於テハ劣敗者タラザルヲ得ザルモノナリトス

三、李品種比較試驗

李ハ六種ニシテ内寺田李ヲ最良トシ甲州牡丹李之レニ次ギゴールテン、グリーンケージ。バ品味共ニ佳良ナルモ結實少ナキモノ、如シ之レ今後大ニ試驗ヲ要ス點ナリトス

四、櫻桃品種比較試驗

櫻桃ハ四種ニシテ支那種ハ需實用トシテハ當分場ニ於テハ見込ナシヒカルロー、ノワルタルジ。ト稱シ購入セルモノハ異品種ナルモ名稱不明極メテ早ク熟シ中果結實豊産ナリ此種ハ他種ニ比シ早

五、葡萄品種比較試驗

熟ナルニヨリ他種ノ尙ホ市場ニ上ラザルニ當リ産スルヲ以テ現時ニ於テハ有利ナル品種ナリトス而シナガラ一度大果ノ出ルニ至レバ價低落スルノ恐アリナボレオン、ピカルローハ結果樹齡ハ前種ニ比シ稍遅ル、モ年ヲ追テ豊産ナルモノ、如シ大果ニシテ未ダ東北ノ産地ヨリ産出セザル前ニ産スルヲ以テ頗ル有望ナリトス此櫻桃栽培ハ世間唱フルガ如ク暖地ニ於テ不結實ノモノニアラザルモ此所ニ大ニ注意ヲ要スベキモノハモニリヤ病害ナリトス此病害ハ花芽及葉芽ヲ犯スノミナラズ落花後果ノ稍生育シ大豆大トナリシ頃ニ至リテ最モ甚シク殆ンド結實ノ全部ニ及ボスガ如キ慘狀ヲ呈スルコト少ナカラザルナリ普通一般ニ此病害ニ注目セズ單ニ氣候及花粉等ノ關係ニヨリ落果セシモノト看做シテ櫻桃栽培ノ絶望ヲ唱へ此病害ヲ等閑ニ附セルモノ、如シ之レ櫻桃栽培上大ニ講究スベキ點ナリトス

葡萄ハ十二種ニシテ最モ栽培シ易ク收量多ク目下市場ニテ販路ノ廣キモノハカトウバー。ナリトス此種ハ一種ノ惡臭ヲ有シ一時唐葡萄ト稱シ擯斥セラレシト雖モ收量多ク近時比較的安ク販賣セララル、モ需用多キニヨリ經濟上ノ有望種ナリトス、レデーワシントン。ハ豊産ニシテ栽培シ易キモ色ノ水青色ナルト充分熟スレバ味美ナルモ果ノ離脱シ易キ缺點アルヲ以テ市場ニ於テ歡迎スルニ至ラザルナリハバードハ粒大キク豊産ナルモ病害ニ對シテ比較的弱キ缺點アリブライトン。ハ豊産ニシテ房充實シ色ハ微紅色又ハ淡紅色トナリ極メテ美ナルヲ以テ日本種葡萄ニ近ク類似セルト甘味極メテ強キ種ナルヲ以テ價格非常ニ高ク需用モ多ク前途有望ナリトス

高等栽培中葡萄ハ本春植付セルモノニシテ品種八種ヲ用ヒタリ發育佳良ニシテ此設備ハ當業者ニ大裨益セルモノ、如シ

尙梨、桃、櫻桃、苹果、李及杏柿ニツキ品種見本試作ヲ行ヒタリ其大要ヲ示セバ次ノ如シ

梨ハ百〇四品種ニシテ結果セルモノニ付調査セルニ洋種梨ニ於テ前途有望ト認メシハポーレー、ジフアー。ダナスホウエー。ブレコー。ニシテポーレジフアーハ最も早熟ニシテ形中大大品質モ亦可ナリ只今後ノ試験ヲ要スルハ結果ノ豊産ナルヤ否ヤニシテダナスホエー。バポーレー。ジフアー。ニ次ギテ熟シ形状大ニシテ品質亦可ナリ木ノ生育ノ状ヨリ見ル時ハ豊産ナルモノ如シブレコー。スハバートレフトヨリ早く熟シ品質佳良ニシテ結核ハ多キモ一ゲ年三回ノ開花結實スルノ性ヲ有セルヲ以テ木ノ發育上他種ニ比シ欠點アルモノ、如キモ之レ又試験ヲ要スベキ點ナリトス和種ニ於テハ今村夏今村秋梨ノ如キ肉質品味共ニ頗ル良品ナリト雖トモ形状他ノ長十郎ノ如キニ比シ稍不良ナルヲ以テ今少シク市場狀況ニ付キ研究ヲ要スベキ點ナリトス

桃ハ一〇二品種ニシテ此中ビヤトリ。カールマン。コンネツツ、サウサルンアーリー。ハ共ニ天津水蜜桃成熟ノ中頃ヨリ出デ市場ニ於ケル良種桃ノ欠乏ノ期ニ産出シ得ルヲ以テ前途有望ナリ此三種中カルマン最も早く果形大豊産ルモ只欠點トスルハ多少落果シ易キ傾アルノ點ナリトスビヤトリ。スハ之レニ次ギテ産出シ豊産中或ハ大果ニシテ肉質締リ充分成熟セルモノハ肉味頗ル上品ナリ此種ハ肉質ノ締レルト果面ニ稍硬キ短毛多キヲ以テ遠ク輸送ニ堪ヘ市場用トシテハ此三種中此種ヲ以テ最トスコンネツツ、ザウサルンアーリーハビヤトリ。スハニ次ギテ産出シ大果豊産ニシテ良品ナリ三種共ニ離核種トス此外エーロー、クリングストン。シユー、メーカー、スニード。トライヤンブ。アドシラル、デウエー。等良品トスルモ尙ホ充分試験ヲ要ス

櫻桃ハ十五種ニシテベルド、シヤトネー。ピカルロー、ルジュー。ガバナー、ウードノ三種ハ共ニ大果ニシテ良品トスルモ尙ホ試験ヲ要ス

苹果ハ二十四品種中結實セルモノ、中ニ於テスタール。イエロー、トラシスベレー。ノ二種ハ先ヅ早生種ニシテ共ニ黄白色ナルモ大果ニシテ前途有望ノ品種ト認メタリ

李及杏二十八種中殊ニ洋李ニ於テコンビネー。ジョン。ヲ以テ最良種ナルモノ、如シ即チ味美ニシテ形狀九ク頗ル美ナリ只結果ノ歩合ニ於テハ尙ホ試験ヲ要ス

柿ハ十三種中富有柿天神御所共ニ結果豊産ニシテ果ハ中又大、形美ニシテ品質誠ニ佳良加モ栽培シ易キ品種ナリトス此外正月柿祇園柿等ノ如キ又其目的ニアリ良品アリトス

(二) 蔬菜ニ關スル試験

一、茄子品種比較試験

茄子ノ品種比較試験中特ニ一二年前ヨリ一般ノ注目ヲ得シ米國種ブラツク、ビユーチー。ハ頗ル形ノ偉大ナルト眞黒色ニシテ蒂部ノ青綠色ナルトニヨリ外觀美麗ニシテシカモ品質ノ佳良ヲ以テ需用ノ増加ノ傾向アリ而シテ栽培比較の容易ニシテ大ナルモノハ四百多ニ達シ一般ニ種子少ナク焼茄子トナスニ達シ風味他種ニ優ルモ煮食用トナスニハ果餘リニ大ニ失セルヲ以テ栽培ニ改良ヲ加ヘ煮食用トシテ適當ナル大サニ採收シ其成績如何ヲ今後ニ於テ試験セントス

二、玉蜀黍品種比較試験

洋種中ニハ品質收量共ニ優等ナルモノアリ殊ニ品質ニ於テ遙カニ在來種ノ上ニアリ供試種類中マンモース、スウ井ト。ラーヂ、エーロー。アーリー、ドワーフ、サットン。ブラツク、メキシカン等ハ最も有望ナル品種ナリ就中早生ニシテ質柔ク且ツ其味ニ富メルハ一般料理用トシテ費用セラル、モノハアーリードワーフ、サットン。マンモース、スウ井トニシテ漸次販路増加シツ、アリ

三、蔓性菜豆品種比較試験

前年來ト畧ホ同一ノ成績ニシテ黄色莢ノアリコボレート、シユモドンルハ品質最優位ヲ占メ次ギハ青色莢ノサウサルン、プロリフヒツク及薄茶ニシテ何レモ品質收量共ニ優良ナリトス

此種菜豆ノ需用ハ從來ノ習慣上在來種(隱元豆)ニ比シ少ナカリシト雖モ近年其需用ノ増加ト共ニ栽培ノ容易ナルト害虫ノ被害少ナキヲ以テ其栽培モ増加セリ

四、甘藷品種比較試験

當場ノ如キ乾燥地ニ於テハ結球歩合比較的多キモ莖葉ノ繁茂悪シク收量少ナキガ爲メ晩生種ハ早生種ニ比シ成績不良ナリトス而シテ成績優良ナル品種ハアーリー、ゼルシー、ウヰクフヒルド、アーリー、スプリング等ニシテ殊ニ此種ノ秋播ヲ早春肥培シテ五月中下旬ニ採收セントスルモノ最モ好成绩ヲ擧ゲタリ

五、軟化葱品種比較試験

本試験ハ各特性ヲ有スル六種ノ葱ヲ蒐集シテ何レモ深サ一尺ノ溝底ニ定植シテ培養軟化シタルニ根深一本葱其成績最モ良好ニシテ軟化部一尺五寸ニ達シ最モ多キ收量ヲ得次ハ千住及九條葱ニシテ何レモ軟化用トシテ有望ナルヲ認メタリ

六、大根品種比較試験

各用途ノ中ヨリ八種ヲ選ビテ試作シタルニ元來當分場ハ大根栽培ニ最モ適セル土質ニシテ何レノ品種モ不可ナルモノナカリシモ就中岐阜縣産ノ島大根ハ從來京都市附近ニ於テ栽培セラレツ、アル莖大根ニ比シ品質宜シク且生育速ナルガ爲メ頗ル好結果ヲ奏セリ鼠大根ハ桃山大根ト稱シ從來栽培セル種類ニシテ澤庵用トシテ京都的ニ最良成績ナリシ

七、葱頭品種比較試験

當分場ノ如キ乾燥地ニシテ石礫ヲ混ゼルガ如キ地ニ在リテハ此栽培ハ餘リ適セザリシガ米國及英國産ノ新品種ヲ以テ試作センニホワ井ト、ギアント。エーロー、グロブ、タンバース。ラージ、レフト、ウ井サース、フィルド。等ハ稍良好成績ヲ得シ

八、馬鈴薯品種比較試験

洋種及在來種二十餘種ヲ以テ試作セルニアーリー、ビュチー、オブ、ヘブロン。シカゴマーケット。アーリー、グード、リッチ。等ハ最良ニシテスノー、フレッキー。サウザルン、スター。リバー、バンクス之レニ次グリ在來種ハ收量多キモ品質劣レリ普通白ト單ニ稱セルモノヲ栽培セシニ品質誠ニ善良ナルモ未ダ充分ノ成績ヲ見ルヲ得ザリキ其他次ノ種類ニ付品種比較試験ヲナセリ

- 南 瓜 胡 瓜 里 芋 胡 蘿 蔔
- 蕃 茄 矮 性 菜 豆 菘 類 豌 豆
- 蠶 豆

九、大根播種期試験

本試験ハ聖護院及島大根ヲ用ヒテ七月中旬八月月上旬及八月下旬ノ三期ニ分チテ播種シ之レガ生育及害虫發生ノ状態ヲ驗シタルニ概ネ左ノ如キ成績ヲ得タリ

七月中旬聖護院大根ヲ播種シタルニ氣候稍乾燥ニ過ギタルガ爲メ時ニ灌水ヲ要シタリシモ生育良好ニシテ時恰モサルハ虫ノ被害期ニアラザルヲ以テ除虫ノ必要ナク肥大速カナリシ然レドモ炎暑ノ候ニ向ヒシガ爲メ根部ノ外皮粗剛ニシテ肉質悪シク末期ニ至リテ腐敗病ニ犯サレ良好ナル結果ヲ得ザリシモ價格ハ非常ニ高價ニシテ栽培上一層ノ注意ヲナストキハ此栽培ハ有利ナルモノナリト信ズ

八月月上旬聖護院及島大根ノ二種ヲ播種シタルニ此期ノモノハ稍害虫ノ被害時期ニ入りシト雖聖護院ハ成績最良好ナリサレドモ島大根ハ前回(七月中旬)聖護院大根ト畧ホ同様ノ状態ニアリテ此島大根ニハ下種稍早キニ失セルモノ、如シ

八月下旬播ノモノハ何レモ品質宜シク好結果ヲ得シモ聖護院大根ハ前二期時ニ比シ價格充分ナラザリシ以上ノ成績ニヨリ綜合スルニ生育善良ニシテ一般ニ耕作シ得易キ時ニ作出スルヨリハ多少人力

ヲ要スルモ未ダ市場ニ産出セザル時期ヲ考定シ栽培スルハ最モ策ヲ得タルモノナリトス其他次ノ種類ニ付播種期試験ヲナス

菜 豆 苾 類

又試作洋種蔬菜中セルリ。パーセリー。オクラ、トマト。ノ如キハ需用大ニ増加シセルリ。又年々需用ヲ増セリオクラノ如キハ從來ハ單ニ洋食料理ノミナリシモ近來ハ和食料理ニ利用シ得ルニ至レルヲ以テ今後ハ大ニ有望ノ一蔬菜タルニ至ラン其他マスキメロン即チ西洋甜瓜ヲ以テ高等栽培ヲナセリ即チ硝子室ニ於テ農商務省園藝部ヨリ硝子四品種ヲ得栽培ニ着手セリ即三月下旬下種シ五月上旬定植シ充分手入セシニ各種結實シ良成績ヲ舉ゲ大ナルモノハ一顆實ニ七百五十匁ニ達シ前途頗ル有望ナリトス

(三) 見本試作

一、見本トシテ左記ノ蔬菜ヲ試作セリ

西 瓜	甜 瓜	洋種南瓜	蕃 菽
オ ク ラ	蕪 菁	菠 薐 草	胡 蘿 蔔
パーセリー	セルリー	蒿 苣	苦 苣

綾 部 分 場

(一) 蔬菜ニ關スル試験

一、茄子品種試験

本試験ハ前年度ヨリ繼續施行セルモノニシテ廣ク各地ノ良種ヲ集メ以テ在來種ノ改良ニ資セントスルモノニシテ其ノ成績ニ依レバ收穫ノ最モ多キハ在來種ニシテ山城長茄、小芹川茄、大芹川茄、清國大長茄、佐土原茄、等順之之ヲ亞ゲリ

二、茄子窒素質肥料試験

窒素質肥料ノ各種中何レガ最モ有利ナルヤヲ知ラントスルモノニシテ其ノ成績ニヨレバ收量ノ多キハ大豆粕施用區ニシテ硫酸アンモニヤ、石灰窒素、タシケージ、知利硝石等順次之レニ亞ゲリ

三、胡瓜窒素質施用試験

本試験ハ胡瓜ニ對スル窒素質施用ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ反當ノ施用量ハ貳貫、參貫、四貫、五貫トス而シテ其ノ成績ニ依レバ五貫區收量最モ多ク四貫、參貫、貳貫、一貫ノ順序ニテ窒素質施用ノ少モノ程收穫減少セリ

四、胡瓜病害豫防試験

本試験ハ胡瓜ノ病害豫防ノ効果ヲ驗スルト共ニ豫防劑ノ適否ヲ知ラントスルモノニシテ石灰ボルドー、合劑、曹達ボルドー、合劑及炭酸銅アンモニヤ液ヲ用ヒ各種共ニ二回散布、四回散布、六回散布ノ四區ニ分チテ試験セリ其ノ成績ヲ見ルニ收量最モ多キハ石灰ボルドーノ六回散布區ニシテ石灰ボルドーノ四回散布區、曹達ボルドーノ六回散布區、炭酸銅アンモニヤ六回散布區、曹達ボルドーノ四回

散布區、石灰ボルドーノ二回散布區順次之レニ亞ゲリ然レ共石灰ボルドーヲ散布セルモノハ下等品多クシテ、優等品ヲ多ク出セルハ曹達ボルドー合劑六回散布區ヲ以テ第一トシ各區共之レヲ無豫防區ニ比スレバ收量、品質共遙ニ勝リ豫防ノ効果頗ル顯著ナルヲ認メタリ

五、南瓜肥料試驗
普通肥料ノ外三要素中何レヲ給シタルモノガ好結果ヲ得ルヤヲ檢セントスルモノニシテ其ノ成績ニ依レバ窒素多量區收量最モ多ク燐酸多量區。普通肥料區之レニ亞ガ加里多量區最モ劣レリ

六、南瓜品種試驗
本種試驗ノ目的ハ胡瓜品種試驗ニ同ジク收量最モ多キハ内藤ニシテ鹿ヶ谷在來種等順次之レニ亞ガ優等ヲ多ク出セルハ内藤ニシテ居留木橋、鹿ヶ谷、早生小南瓜等順次之ヲ次ゲリ

七、越瓜品種試驗
本試驗ハ其ノ目的ハ茄子品種試驗ニ同ジクシテ加茂瓜、收量最モ多ク桂瓜、早生越瓜、黒門越瓜等順次之レニ並ゲリ而シテ最モ優品ヲ多ク出セシハ桂瓜ナリトス

八、里芋品種試驗
本試驗ノ目的ハ茄子品種試驗ニ同ジク其ノ成績ヲ見ルニ收量ノ最モ多キハ東京早生芋ニシテ土垂芋、熊野芋(丸形)、熊野芋、シガミ、京都早生芋、等順次之レニ亞ゲリ而シテ頭芋ノ收量多キハ赤芽芋ニシテ唐ノ芋(長形)之レニ次ギ子芋ノ優品多キハ土垂芋トス

九、馬鈴薯品種試驗
本試驗ノ目的ハ茄子品種試驗ニ同ジク其ノ成績ニ依レバ收量最モ多キハ「バーバンクス、シードリソング」ニシテ「スノーフレীগ」「アメリカン、マグナスサリエム」「アーリグードリッチ」「マンモースピール」等順次之レニ亞ゲリ

十、菜菔品種試驗

本試驗ハ其ノ目的ハ茄子品種試驗ニ同ジク其ノ成績收量最モ多キハ煮食用ノモノニテハ鞍馬口菜菔ニシテ方領菜菔聖護院菜菔之レニ亞ガ漬物用ノモノニテハ練馬丸尻最モ多ク宮重、吉田、島菜菔等順次之レニ亞ゲリ

十一、蕪菁品種試驗

本試驗ハ其ノ目的ハ茄子品種試驗ニ同ジク其ノ成績ヲ見ルニ聖護院蕪菁最モ收量多ク波路、近江、天王寺蕪菁等順次之レニ次ゲリ

十二、菜菔播種期試驗

本試驗ノ目的ハ菜菔ニ對スル播種ノ適期ヲ知ラントスルモノニシテ其ノ成績ヲ見ルニ收量最モ多キハ八月十日播ニシテ八月三十日、九月十日、九月二十日播順次之レニ亞ガ八月二十日播ハ播種后晴天打續キシ爲メ蚜虫ノ被害多カリシヲ以テ收量少ナシ而シテ九月十日以降ニ下種セルモノハ凡テ品質劣レリ

十三、甘藍品種試驗

本試驗ハ其ノ目的ハ菜菔品種試驗ニ同ジクシテ收量ノ最モ多カリシハ「バーピース、シユハーヘット」ニシテ「サクセツション」「アーリサンマー」「ウオートムキング」「セレクテットブラットタツチ」等順次之レニ亞ゲリ而シテ優等品多カリシハ「ウオタムキング」「サクセツション」「バーピース」ユアーヘット」等ニハテ結球部合ノ多カリシハ「テンダーエンドール」及「インビリアル」ハ全部「デニツシユボールヘット」「アーリーゼルシーウエキファイルド」ノ九割七分等トス

右ノ外左ノ試驗ヲ施行セリ

茄子補肥回数試驗
茄子窒素施用量試驗

- 胡瓜品種試驗
- 菜豆品種試驗
- 萊服人尿用量試驗
- 苾品種試驗
- 葱品種試驗
- 甘藍畦巾試驗
- 甘藍肥料試驗
- 蠶豆品種試驗
- 南瓜摘心試驗
- 夏葱品種試驗
- 蕪菁肥料試驗
- 苾肥料試驗
- 葱苗取扱法試驗
- 甘藍移植回收試驗
- 葱頭品種試驗

(二) 果樹ニ關スル試驗

一、生果殺虫法試驗

本試驗ノ目的ハ栗實ヲ喰害スル害虫ヲ藥品其ノ他ノ方法ヲ以テ殺滅シ然モ其ノ品質ニ及ボス影響如何ヲ究メ以テ一般ニ簡易ニシテ有効ナル方法ヲ案出セントスルニアリ

本試驗ノ施行法左ノ如シ

- 第一 燻煙ノ部
 - イ、青酸瓦斯
 - ロ、二硫化炭素
- 第二 藥液浸ノ部
 - イ、水(淡水)
 - ロ、フオルマリン

試驗細目ト結果左ノ如シ

一、燻煙ノ部

イ、青酸瓦斯

燻煙時間ヲ三時間、六時間、二十時間トナシタルモノニシテ各時間共ニ害虫ノ斃死ヲ見ル然レドモ其ノ時間ヲ増ス毎ニ果實ノ質硬化シ水分ノ欠乏ト甘味ノ減少ヲ來スルモノ、如シ

ロ、二硫化炭素

燻煙時間ヲ十分間、二十分間、四十分間、一時間、一時間半、二時間、三時間、四時間、八時間、十二時間、二十四時間ニ別チ施行セリ

十分間、二十分間共ニ何等ノ變化ヲ認メズ、四十分間、一時間、一時間半共ニ果肉少シク軟化ス然レ共風味ハ大變セズ殺虫ノ効ハ時間ノ増加ニ正比スルヲ見ル四時間以降ハ害虫斃死黒變スルト雖モ時間ノ増加ニ伴ヒ果肉柔軟トナリ水分多量ニ含有シ色淡褐色ヲナシテ一種ノ臭氣ヲ發スルモノニシテ到底果ヲ食用ニ供スルヲ得ズ之レヲ要スルニ二時間燻煙ヲ以テ適當トスルニ似タリ

二、藥液浸ノ部

イ、水(淡水)

水浸時間ヲ二十四時間、四十八時間、七十二時間トナシ四十八時間、七十二時間ヲ二別シテ一時一回水ヲ取換フルモノト終始取リ換ヘザルモノニ區別ス共ニ各種害虫ノ斃死ハ毫モナク隨テ品質ノ變化ヲ來スコトナク然レドモ四十八時間以降ノモノハ多少醱酵ノ臭氣ヲ發スル憂アリ

ロ、フオルマリン液

浸水時間ヲ次ノ如クナシ且ツ液ハ五%、十%、ニ區別セリ
五%ノモノニアリテハ一時間、二時間、四時間、二十時間トナシ

十%ノモノニアリテハ十分間、三十分間、一時間、二時間、四時間、二十時間トス
五%液ニアリテハ風味ノ變化ナク且害虫ノ斃死亦ナシ
十%液モ又然リ害虫、風味、品質、等變化ナク只ダ二十時間ノモノニアリテハ果肉多少脆クナルヤ
ノ憂アリ

二、栗實貯藏法試験

本試験ノ目的ハ栗實ヲ貯藏スルニ如何ナル方法ヲ採レバ能ク貯藏ニ堪ヘ然モ其ノ品質ニ惡變ヲ防ギ
得ルカ且ツ簡易ニシテ一般ニ行ヒ易キ有効ナル方法ヲ案出セントスルニアリ
施行法左ノ如シ

乾燥スベキ屋根軒下ニ埋藏セルモノ

瓶ニ入レ封蠟ヲ以テ密封アルモノ

瓶中ニテ砂ニ埋藏セルモノ

壺中ニ棚ヲ作り其ノ上ニ貯フルモノ

右試験ノ結果ハ屋根軒下ニ埋藏セルモノハ場所、設備ノ完全ナク欠キタル爲メカ水分ノ過多ヲ來シ爲
メニ果ノ下層ノモノ黒變腐敗セリ瓶中ニ密封セルモノハ瓶中ノ濕氣多ク果ノ下層上部ヲ問フズ白微
菌ヲ生ジ腐敗セルモノアリ

瓶中ニ乾砂ヲ入レ其ノ内ニ埋藏セルモノ最モ可良ニシテ風味、品質ノ變化殆ンドナク好結果ヲ得タ
リ

瓶中ニ棚ヲ作りアルモノ亦上部ハ蓋ヲナシアルモノナルヲ以テ瓶内ノ濕氣多ク亦白微菌ノ生スルモ
ノ多大腐敗セルモノ又往々アリ

三、果樹ニ關シ尙左ノ試験ヲ施行シツ、アリ

一 梨樹品種試験

一 桃樹品種試験

一 葡萄品種試験

一 栗樹整枝法試験

一 栗樹枯木試験

一 柿樹品種試験

一 苹果品種試験

一 栗樹品種試験

一 同 栽培法試験

一 梅樹品種試験

以上試験成績ニアリテハ着手後未ダ日淺キヲ以テ後日確報セン

見本試作ノ部

一、見本作トシテ左記ノ蔬菜及果樹ヲ試作セリ

一、蔬菜中ニテ蕃茄外二十五種ヲ栽培セリ

一、果樹中ニテ杏、李、無花果、櫻桃、胡桃、柑橘等

報告及庶務

圖書發刊

報告書類發刊

四十三年度ニ於テ發刊セシ報告書其他普及ノ爲メ印刷セシモノハ四種七千七百〇六部ナリ
而シテ右報告書類ハ關係官衙、公署、學校、農事團體農業篤志者等ニ配布セリ

名稱	部數
京都府立農事試驗場成績報告	二、三九六部
臨時報告	三、二一〇部
作付一覽	二、〇〇〇部
作業豫定表	一、〇〇〇部

職員出張件數

左ノ事項ニヨリ職員ノ出張セシト百四十二回延日數三百三十日ナリ

事項	回数	延日數
害出及ビ野鼠驅除	六	二〇
事務打合せ	九	一〇
講話並ニ講習	一七	三
視察	五	二〇
調査	五	九

品評會審査 物品講入	會 實地指導	種苗配布數
三	二	四石五斗一升五合
一	二	四升八合
三	七	三貫五百目
五	二	二千〇八十八本
		百三十五本
		一斗八升

水	蔬	果	其他	野鼠驅除	施行反別
稻	菜	樹	類		三千〇二十三町步
					(葛野、乙訓、紀伊、南桑田、船井、何鹿ノ六郡ヲ施行セリ)

依頼分析件數

本場ニ於テ一般公衆セリ依頼分析ヲ受ケタル件數ハ八件ニシテ分析成分數ハ二十ナリトス

質問應答件數

肥料關スル件	四件
病虫害ニ關スル件	一件
栽培ニ關スル件	百五十一件
種苗ニ關スル件	四件

文書受發件數

本場	一八三三	受	五三七	發
桃山分場	九三三		五五三	
綾部分場	四五〇		六一九	
合計	三二一六		一七〇九	

來觀人數

本場	五六八
桃山分場	二六七二
綾部分場	一四六六
合計	四七〇六

會計事務

四十三年度ニ於ケル經費左ノ如シ

一金一万九千〇四十二圓十九錢

内

金五千五百二十四圓
 金二千九百七十五圓八十九錢
 金三千百〇四圓九十五錢
 金七千百四十一圓四十七錢
 金二百九十五圓八十八錢

農事試驗場費

修事場雜俸	給給
繕業	費費

1421
275

明治四十四年十一月二十七日印刷
明治四十四年十一月二十九日發行

京都府立農事試驗場
(葛野郡桂村)

京都市上京區下立賣通小川東入
西大路町十番戶

印刷者 中西勝太郎

京都市上京區下立賣通小川東入
西大路町十番戶

印刷所 中西印刷合名會社

